

TRUE COLORS DIALOGUE

トゥルーカラーズ ダイアローグ

True Colors DIALOGUE

ママリアン・ダイビング・リフレックス／ダレン・オドネル
わたし たいけん
「私がこれまでに体験したセックスのすべて」

2021年4月8日(木)～4月11日(日) @スパイラルホール(東京都港区)

出演

【演出・脚本】ママリアン・ダイビング・リフレックス／
ダレン・オドネル

【キャスト】千葉、富山、兵庫、宮城、東京出身のシニア

【サウンドデザイナー・司会】入江陽

【通訳・翻訳】田村かのこ、水野響

【舞台手話通訳】加藤裕子、橋本一郎、水野里香

カナダ出身のアーティスト、ダレン・オドネルを中心とするママリアン・ダイビング・リフレックスの演劇作品。公募で集まった60歳以上の出演者5人とダレンらが1ヶ月のワークショップとインタビューを通して個々の性体験の歴史を振り返り、脚本を制作。障害、性など、さまざまなバックグラウンドのあるシニアたちが、自らの言葉で人生を語り、多様な性のあり方やママリアンの挑戦的な演出がSNSでも話題となった。



01 公演の冒頭で、観客はこれから話されることを「絶対に口外しない」という誓いを立てた



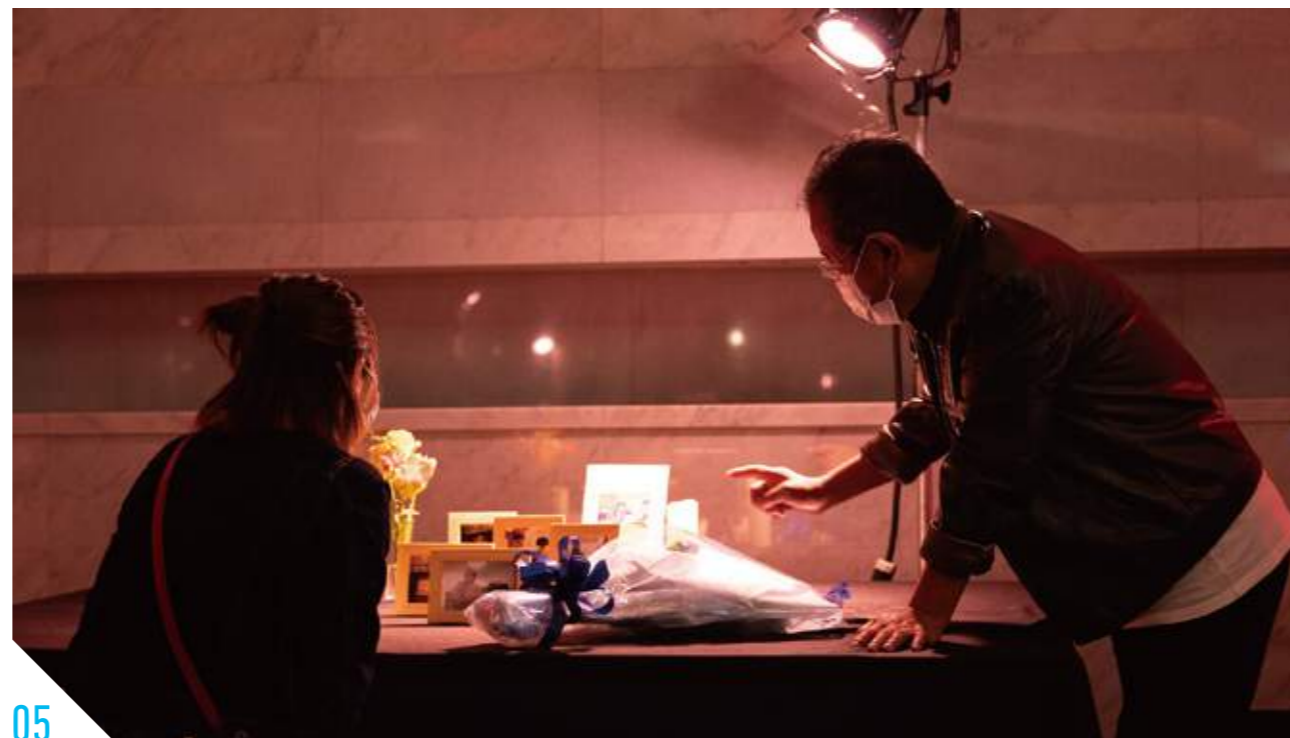
02 舞台上では、シニア5人が自身の言葉で、それぞれの性体験、半生について静かに語った



03 コロナで来日が叶わなかった演出。脚本のダレンも画面越しに登場し、観客に次々と質問を投げかけた



04 時代を彩った懐かしい音楽に合わせて、席を離れて踊る出演者たち



05 公演後、出演者と観客によるダイアローグの時間を設けた



06 日本手話・日英通訳・制作チームのスタッフも舞台上がり、一緒に出演者の半生を祝った

Voice

戸田真琴 (AV女優、文筆家、公演レポートより抜粋)

“どんなことがあっても生きていく”という綺麗事は、自らこの世を去ってしまう人も後を絶たないこの時代には乱暴な言葉に感じるかもしれない。言い換えるならば、みんな“あんなことがあっても、生きている”のだ。私たち、あんなことがあったのに、生きているね。そう心で呼びかけると、「まだまだいろんなことが起こるんだよ。」と暗に言われたような気さえた。

橋本一郎 (舞台手話通訳)

(通訳の依頼を受けて) 最初、内容を見たときに「無理でしょ」と思いました。手話というのは視覚言語なので、性的な言葉も動作として見せなきゃいけない。そんなのできないと思うじゃないですか。でも、時代は変わってきていて、出演者も含めていろいろな人がいるわけだから、そこからろうの人が外れちゃいけないなと思ったんです。ろうの人も見えない人もそういう場には絶対必要で、そういうチャンスをもたらえたらと割り切って参加することにしました。<取材・文：山崎健太>

Movie



TRUE COLORS DANCE

TRUE COLORS DANCE

ALL ABILITIES
NO EXCUSES
NO LIMITS

トゥルーカラーズ ダンス

ノーリミッツ

True Colors DANCE ~No Limits~

2019年9月10日(火) @渋谷ストリーム前 稲荷橋広場(東京都渋谷区)

出演

イルアビリティーズ ザ・フロリアーズ ビーボーイ・シゲキックス
【ダンサー】ILL-Abilities, The Floorriorz, Bboy Shigekix,
 ビーガール・ラム ビーボーイ・タイスケ ソーシャル・ワーカーズ
Bgirl Ram, Bboy Taisuke, SOCIAL WORKEERZ,
 エルジェイ・ブレイカーズ・フロム・ラブ・ジャンクス
LJ BREAKERS from LOVE JUNX
 ウノ ノッポ シット・キングス
【ワークショップ講師】UNO/NOPPO (st kingz)**
 カイト チグサ ビーボーイ・カツワン
【司会】KITE, Chigusa 【ゲスト解説】Bboy KatsuI
 ディージェイ・マー・スキー こまつともみ
【DJ】DJ MAR SKI 【手話通訳】はしもといちろう、小松智美

True Colors Festivalの幕開けとなったTrue Colors DANCE。障害者ダンサーで構成される多国籍ユニットILL-Abilitiesを招聘し、ブレイキンのスターチームThe Floorriorz、ダウン症当事者によるLJ BREAKERS、福祉職従事者等からなるSOCIAL WORKEERZらが競演。客席には手話、字幕、ゆずり合いエリアなどの鑑賞サポートを用意した。



01 身体の特徴をいかした表現で会場を盛り上げるルカ (ILL-Abilities)



02 それぞれのダンススキルを披露するLJ BREAKERS (LOVE JUNX)



03 バトルを終え、互いのパフォーマンスをたたえ合う出演者たち



04 ワークショップでは、一人ひとりがそれぞれの特性をいかしたムーブに磨きをかけた



05 来場者のアクセシビリティにも工夫をこらした運営を心がけた



06 やりきった笑顔が弾ける、出演者による記念撮影

Voice

STEEZ (The Floorriorzのメンバー、ブレイクダンサー)

ILL-Abilitiesのメンバーからは、いつも出演しているダンスバトルとはまた何か違う、強烈で特別なエネルギーを感じました。オーディエンスの雰囲気にも普段と違う温かさを感じました。観客のなかには初めてバトルを観た人も多かったと思います。観る人によって気持ちがあがる場所が違うって、当然のことなんですけど、面白い体験でした。

Samuel "Samuka" Lima (ブラジル、ILL-Abilitiesメンバー)

(ワークショップの感想として) これまでのどの体験とも違う、素晴らしい体験だった。ダンスの力と、人が喜ぶところを見ることができた。これが僕らの使命だと思う。最初は皆シャイで、閉じているように思えた。やってみたくて、できない。そんな風に感じたんだ。でも最後は皆が踊っていたよね。とても嬉しかった。

Movie



TRUE COLORS FASHION

トゥルーカラーズ ファッション

True Colors FASHION

たいわ いふく くみ どうじしゃ かつとう
対話する衣服 - 6組の“当事者”との葛藤 -

2021年3月5日(金) ~ オンライン配信

制作

【監督】河合宏樹

【音楽】蓮沼執太

【写真・構成】LILY SHU

【プランナー・アドバイザー】

山縣良和 (このがっこう)

ファッションデザインの私塾「このがっこう」の卒業・在校生から6名のデザイナーを選抜し、さまざまな身体と心を持ったモデルと組んで作品を制作。そのプロセスをドキュメンタリー映像として発表した。映像には、作品完成までの数か月、参加者が悪戦苦闘しながらも、それぞれの背景や個性に向き合う姿が記録され、完成した6組の作品を紹介するクライマックスシーンでは、写真・構成をLILY SHUが、音楽を蓮沼執太が担当した。



斎藤幸樹 × カイト
「cotton mail」

モデルが描いた「ゼルダ姫」の絵をモチーフに、モデルの個性を意識したデザインに仕上げた



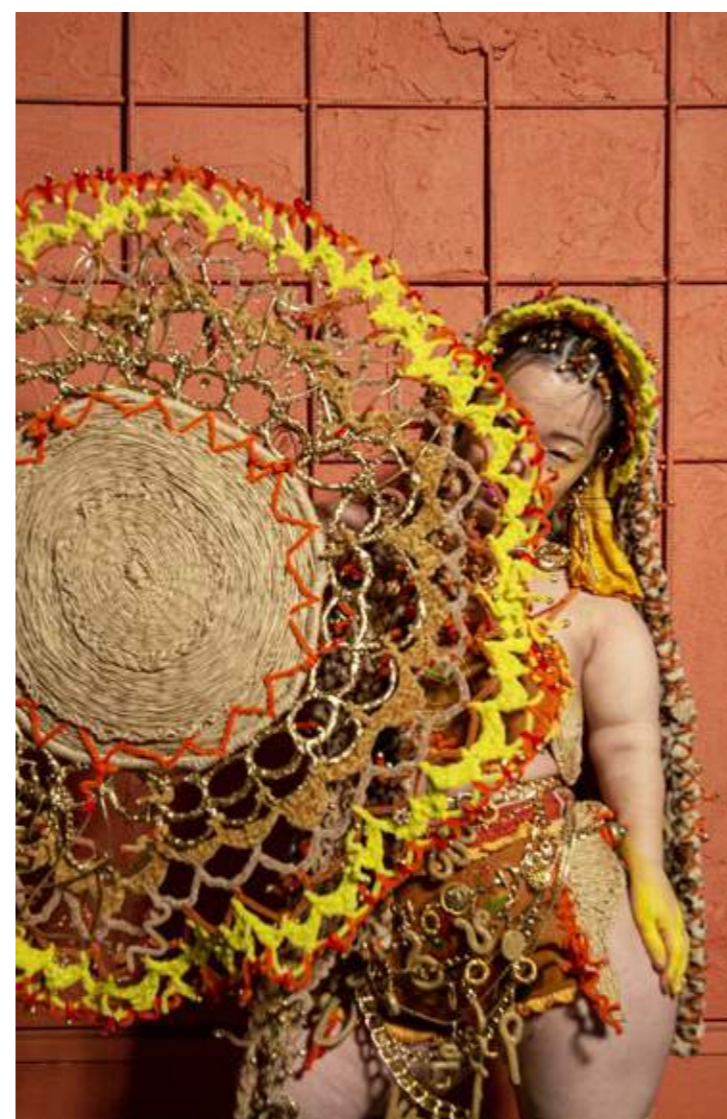
SiThuAung × アオイヤマダ
「untitled」

見られることを重視するファッションで、普段は見えない「身体」や「動き」を表現することを目指した



市川秀樹 × 大前光市
「変見」

「ある機能をなくして、他の機能にする」をテーマに置き、偏見に対して問いかけた



タキカワサリ × ちびもえこ
「BIG M」

土偶のフォルムとモデルの身体をリンクさせて、「縄文のヴィーナス」をテーマに仕上げた



田畑大地 × 葦原海
「Metamorphose」

モデルとの対話を通じ、人魚から人への変身、事故以前から現在への変身というコンセプトが生まれた



八木華 × 須川まきこ
「能動的な身体」

能動的に身体と向き合う女性像をコンセプトに服を「めくる」という行為を通じ、服のデザインが変わることを大切にしたい

Voice

山縣良和 (True Colors Fashion アドバイザー、デザイナー)

20世紀に確立したファッションデザインの現場では、効率よく量産できるような画一化された美の基準や“標準”という概念を軸に発展した歴史を持ち、ファッションの教育機関も少なからずそれらの概念を下地とした場であったと言えます。そのような前世紀的な思考から一歩踏み出し、デザイナーと当事者同士のより踏み込んだ感情と感情での対話が必要なのではないかと思います。葛藤や試行錯誤、まだまだどこか残った状態ではあるかもしれませんが、本プロジェクトはいままであまり意識化されなかった問題や課題、心の距離があぶり出された、つぎなる一歩へとつながったのではないのでしょうか。

Movie



TRUE COLORS CARAVAN

トゥルーカラーズ キャラバン

True Colors CARAVAN

2022年4月～ @全国各地

【パフォーマンスステージ】

キャラバンパフォーマンス
CARAVAN Performers

出演 (DAIKI、だいき かんばらけんた、えり かのけん、Eri、ゆうせい テコエ勇聖、とくながけいた 徳永啓太、はるき HARUKI)、他

【SOCIAL LOCKS! 課外授業】

こうちょう こもりはやと こもり校長 (小森隼)、きょうとう ペエ教頭 (ペエ) 他

2022年春から秋にかけ、これまで東京を中心に開催してきた True Colors Festival が鮮やかな黄色のスクールバスとともに、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡の全国6ヶ所を巡行。商業施設や駅ビルなどオープンスペースを会場に、障害のあるアーティストらによるパフォーマンスや地元ダンサーとのバトルステージ、東京FM「SCHOOL OF LOCK!」とタイアップしたトークステージ「SOCIAL LOCKS! 課外授業」、エキシビジョンなどを展開する。



日本人初の低身長症クランパー
DAIKI (CARAVAN Performersリーダー)



車椅子ダンサー、サーカスパフォーマー
かんばらけんた



耳の聞こえない(にくい)ストリートダンサー
かのけん



バレエダンサー
Eri



フリースタイルダンサー
テコエ勇聖



ダウン症候群と生きるヒューマンビートボックス
HARUKI



車椅子DJ
徳永啓太



振付・演出
DAIKI、伊豆牧子

Voice

DAIKI (振付・演出、ダンサー)、伊豆牧子 (振付・演出、振付家)

互いに知ることからスタートして、旅と共にパフォーマンスもチームも見る人も成長していく。多様な特性や時に困難さえも、愛をもって唯一無二の演出に変容させたいですね。(DAIKI)
先が見えず立ち止まった体験があったからこそ、CARAVANは出発します。パフォーマンスは生きているもの。心に対する刺さり方の多様さをぜひ楽しんでください。(伊豆)

西本 宏樹 (アクセシビリティサポート担当)

誰もが参加しやすいフェスティバル環境を目指し、様々な工夫や取り組みを行ってきた True Colors Festival。その意思を全国へ! CARAVAN で出会う各地のスタッフと共に、イベント催事におけるアクセシビリティサポートの実装から標準化までを目指します。

Movie



TRUE COLORS CIRCUS

トゥルーカラーズ サーカス

True Colors CIRCUS ~SLOW CIRCUS PROJECT~ 「T∞KY∞~虫のいい話~」

2021年4月24日(土) @池袋西口公園野外劇場(東京都豊島区) ※公開ゲネプロ

制作・出演

【クリエイティブプロデュース】^{くりよしえ}栗栖良依

【構成・演出】^{かない}金井ケイスケ

【文芸・音声ガイド】^{ますやまたかし}益山貴司

【振付】^{いでしげひろ}井手茂太 【衣装・デザイン】^{やないはらみつし}矢内原充志

【パフォーマー】^{かおり}小川香織、^{トッチ}高橋徹、^{あやか}鈴木彩華、^{かのけん}鹿子澤拳、

^{コージ}東野寛子、^{なつみ}定行夏海、^{HIROKO}楡山宏子、^{KamiEri}神本恵里、^{はづき}久保田葉月、

^{ソーシャルワーカーズ}SOCIAL WORKEERZほか、29名

SLOW CIRCUS PROJECTによる、障害の有無・年齢を超えて集まったパフォーマーによる野外サーカス公演を開催。緊急事態宣言によって公演は急遽中止となったが、2021年6月にはゲネプロ(通しリハーサル)の様子を収めた映像全編を無料配信。クリエイティブプロデューサーの栗栖良依をはじめ、制作チームや多くのパフォーマーは、同年8月に行われた東京2020パラリンピック開閉会式でも活躍した。



01 手の位置やバランスなどを慎重に確かめながら進むエアリアルの練習風景



02 車椅子を自在に操り、体を高く持ち上げる



03 ステージの進行に合わせて、ファンタジックに公演の状況を伝える音声ガイドチーム



04 あたりがすっかり暗くなると、たくさんの電飾を見にまとった「夜光虫」たちが現れた



05 かおりが、苦手な高所から飛び降りるのを全員で励まし、待ち構える



06 障害のある人もない人も、出演者全員がテーマソングに合わせて一堂にダンスした

Voice

出演パフォーマーの介助者

コロナ禍での練習が事務局の皆さんのご配慮で安全に行われたこと、本当に感謝しています。特にリスクが高い重症心身障害者は練習の回数も少なくしてもらいました。ゲネプロに初めて参加した後、目が3倍位大きく見開いて戻ってきたのを見て、きっとすごい景色を見てきたんだあと感動しました。出演者の皆さんとお話したり、何気ないやりとりがとても幸せそうで、参加してこそ得られる豊かな気持ちを持ってと思います。

ゲネプロ鑑賞者(アンケートより抜粋)

プラットキャスト(音声配信サービスによる音声ガイド)が障害のない私の視覚にもとても役立ちました。ひと昔前は、障害者を見世物にするなんて...といった空気がありました。障害のある人の創るモノが世に必要な時代が来ました。今後も楽しみにしています。

Movie





TRUE COLORS FESTIVAL

超ダイバーシティ芸術祭

歌や音楽、ダンスなど、私たちの身近にあるパフォーマンスアート。

障害や性、世代、言語、国籍など、個性豊かなアーティストが

まぜこぜになると何が起こるのか。

そのときどきをアーティストも観客もいっしょになって楽しむのが、

True Colors Festival (トゥルー・カラース・フェスティバル) です。

居心地のいい社会にむけて、まずは楽しむことから始めませんか。

HISTORY

2006 ラオス、ベトナムで「障害者国際芸術祭」開催

2008 カンボジアで「障害者国際芸術祭」開催

2013-2014 ミャンマーで「障害者国際芸術祭」、「ASEAN 障害者芸術祭」開催

2017 タイで「障害者太鼓祭」開催

2018 シンガポールで「アジア太平洋障害者芸術祭 ~True Colours Festival~」開催



公式サイト (日本語)



公式 twitter

TRUE COLORS FASHION



トゥルーカラーズ ファッション

True Colors FASHION

2021年5月30日(日)～ オンライン配信

しんたい たようせい みらい はな
 身体の多様性を未来に放つ
 ダイバーシティ・ファッションショー

制作

【総合ディレクター】^{おちあいういち}落合陽一

【音楽】ケンモチヒデフミ

【映像ディレクション】^{バードアンドインセクト}bird and insect

【ファッションディレクター】^{やまぐちそうた}山口壮大

メディアアーティストの落合陽一を総合演出に迎え、11組のモデル・テック企業・ファッションブランドがタグを組み、ショーとインタビューから、その制作プロセスを明らかにするダイバーシティ・ファッションショー。モデルの身体を起点につくられたファッションから、義足、車椅子など、身体に寄りそうテクノロジーをファッションによって拡張し、誰もがもつ身体の多様性に呼応するアダプティブな装いのあり方を考察した。



01 02

Blade for All (T)×
 義足のキッズランナー (M)×
 無印良品 (F)



Mission ARM Japan (M)×
 HATRA (F)

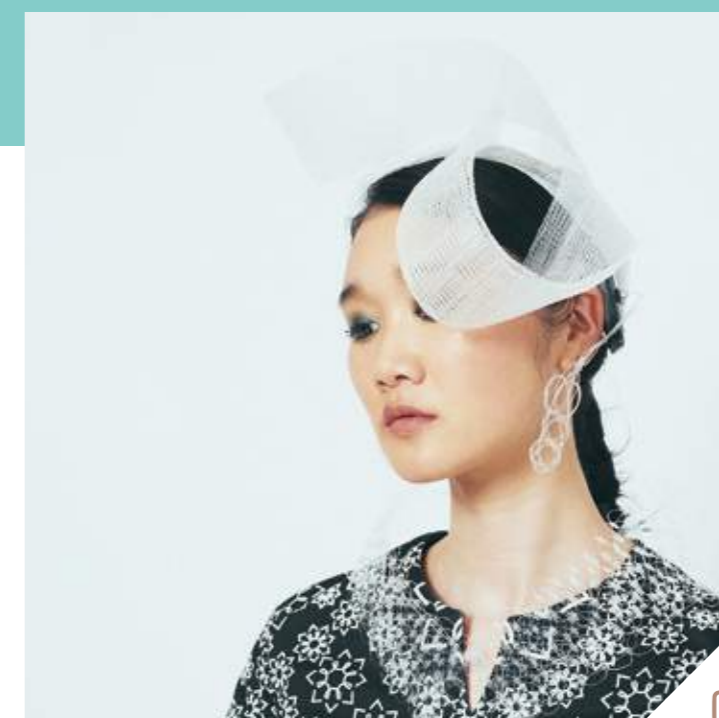


OTOTAKE PROJECT (T)×
 乙武洋匡 (M)×
 やまと/KORI-SHOW PROJECT (F)



03 04

妊婦体験ベルト (T)×
 ryuchell (M)×
 MIKAGE SHIN (F)



05 06

Antenna (T)×
 Pippi (M)×
 ANREALAGE (F)

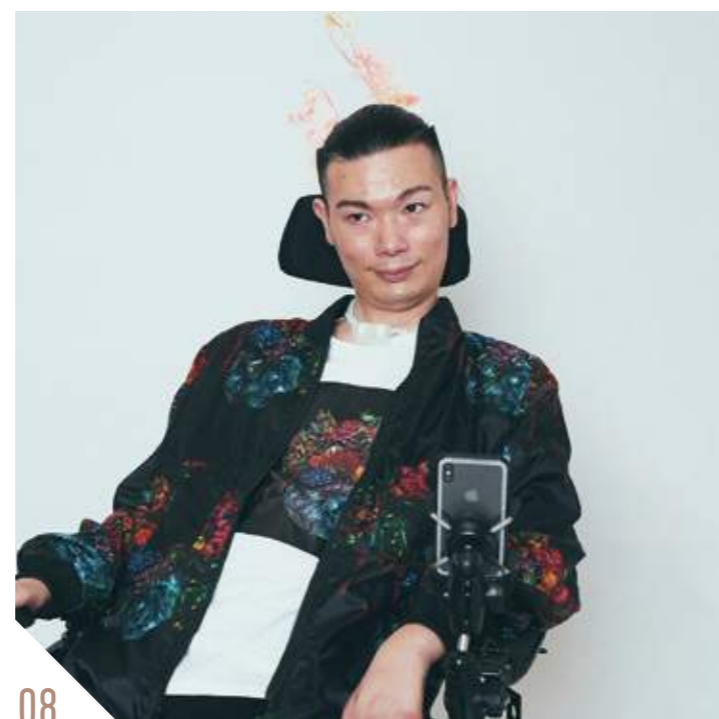


OTON GLASS (T)×
 濱ノ上文哉 (M)×
 beta post (F)



07 08

Live Jacket (T)×
 GenGen (M)×
 KANSAI YAMAMOTO (F)



ALS SAVE VOICE PROJECT (T)×
 武藤将胤 (M)×
 01 BORDERLESS WEAR (F)



WHILL (T)×
 我妻マリ (M)×
 ヴィンテージファッション (F)



09 10

GIMICO・あべけん太・
 栗原慎子・益ノ進 (M)×
 TOMMY HILFIGER ADAPTIVE (F)



11

ここね (M)×
 kotohayokozawa (F)

Voice

落合陽一 (True Colors Fashion 総合ディレクター)

生物の多様な体表を眺めるとき、自然の生態ニッチが作る風景との調和の美しさを感じ入る。毛皮を持たない我々が、様々な季節や機会に合わせて、装い、着替え、様々な変身を可能にしてきたように、我々は今後もその身体性にテクノロジーを用いて、そしてそれが自然化する過程で、多彩な変容や変態を遂げていくのだろう。自然に見られるような生物が持つ多様性の美を、様々な身体性の美に見立てて、今回ファッションショーを構成することにした。自然化するテクノロジーによって揺籃される身体が多様性とはなんなのか、参加者や聴衆の皆様とともに考えていきたいと思っています。

Movie



TRUE COLORS BEATS



トゥルーカラーズ ビーツ

アンカウンタブルビーツフェスティバル

True Colors BEATS ~Uncountable Beats Festival~

2019年10月22日(火・祝) @日本財団ビル(東京都港区)

出演

【イベント・ディレクター】サンティアゴ・バスケス

エルムホイ ジャンユウ いわさき おおともよしひで

【ゲスト・アーティスト】ermhoi, xiangyu, 岩崎なおみ、大友良英、

かくどうまなみ かついゆうじ たからくみこ

角銅真実、勝井祐二、コムアイ、高良久美子、

よしがきやすひろ

芳垣安洋、ファナ・モリーナ、ミロ・モージャ

やくしまれじゃー

【ゲスト・バンド】YAKUSHIMA TREASURE (水曜日のカンパネラ×

モノラルミニプラグ

オオルタイチ)、Monaural mini plug

【ゲストDJ】岸野雄一

アルゼンチンを代表する音楽家サンティアゴ・バスケスの指揮のもと、日本からもゲストアーティストを招聘。バスケスが考案した身振りを使った指揮のもとに多人数での演奏を繰り広げる「Rhythm with Signs (リズム・ウィズ・サイン)」を用いて、ワークショップに参加した総勢約100人がオーケストラとなり、障害、国籍、年齢など、さまざまな違いを超えたアンサンブルを展開した。



01

事前ワークショップの様子。サンティアゴの身振りを指揮に、タイミングを合わせて発声するコムアイ



02

サンティアゴの動きに目を凝らして、音を出すタイミングを図る参加者



03

言葉のいらぬルールで展開されるサンティアゴのハンドサイン



04

サインに合わせて演奏する角銅真実。打楽器、管楽器、弦楽器に加え、法螺貝、ホース、空き缶など楽器にも多様性が溢れた



05

ハンドサインを媒介にして、国籍や障害の有無や年齢などさまざまな参加者が音を合わせた



06

約100名がアンサンブルに参加し、オンライン配信も実施した

Voice

マリア・ロールダン (ワークショップ参加者)

すごく楽しかったです。私は日本語を勉強中なので、日本語で十分なコミュニケーションをとることができません。そのような状態で参加してみたら、大半が日本人だったので、最初は気後れしていました。ところが、ハンドサインのシステムが想像以上に直感的だったこともあって、時間が経つごとに言語や国籍の壁が消えていくような感覚をおぼえました。

コムアイ (参加アーティスト、ミュージシャン)

音楽って一人でもできるのが良さのひとつだけれど、今回のように大勢で集まって隣の人と意見が違ったときどう擦り合わせるかって、どっちが正しいとか論理的にどうこうじゃなくて、言うなればバイブス(雰囲気、ノリ)勝負ですね。どちらかが悲しい思いをせず、決断をして、それを楽しんでいくのが見られました。ワークショップを通じて、True Colors BEATSのオーケストラに“社会”を見出すときがあっておもしろかったです。

Movie

